

井戸端 通信

Vol.34 発行 平成20年9月13日

〒930-0096
富山市舟橋北町7-1
富山県民生涯学習カレッジ内
自遊塾広報部

自遊塾で

仲間の輪を広げよう



平成20年度自遊塾塾長
加藤 利雄

子供が結婚し、妻と二人で自由な時間を生き生きと過ごすためには、庭に咲く花、自然などの共通の話題

を持つことです。

もつと自然を知り、草花について少しでも分かれれば外で過ごす時間も楽しいだろうと考え、連日県内の図書館で植物の本を読み勉強しました。

知れば知るほど楽しみがわいてきます。この喜びを少しでも多くの人に分かち与えればと考え、自遊塾を選びました。

「越中の山野草」を開講し、年と共にすばらしい人が多く集うようになり、仲間の輪が広がりました。

「共に語り、共に学び、共に遊ぶ」

仲間こそ人生の友であり、生きがいです。

自遊塾は家元制の講座はなく、講師が生み育てたユニークな小さな講座の集まりです。

この未知なる小さな講座は無限の可能性を秘め、年と共に成長し続ける夢のある講座ばかりです。

今年は大きなプロジェクトが2つ
全員で協力し成功させましょう。

「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」

第1期セミナーに参加しているすばらしいリーダーが10月に巣立ちます。生涯学習のリーダーとして私達と共に歩み成長されるよう期待します。

「県民カレッジ20周年記念」

生涯学習の中心となり、多くの県民の心の支えとして発展してきた県民の宝を私達も応援し協力を惜しみません。

今後も夢に向かってガンバリましょう。

自遊塾、再デビュー!!

「自己啓発の場を与えてくれる自遊塾」



平成20年度自遊塾副塾長
岩田 元一

今から9年前の1999年に「家庭でできるツボ療法」で県民教授デビューしました。3年間の充電期間を経て

昨年より県民カレッジ自遊塾に復帰しました。復帰して初めての県民教授会の日、自己紹介が済んですぐに、顔なじみの先生方から「お帰りなさい」といつてもらい、「アットホームな自遊塾って...、いいよなあ」とうれしく思いました。

さてわたしは前述したように、自遊塾講座を途中3年間休止し、充電期間を設けました。講座進行に迷いが出てきたことと講義系の講座のためその内容がマンネリ化してきたためです。他の県民教授に相談することも解決の手段だったかもしれませんが、自分の場合一度外から自遊塾を見てみようということでした。

この3年間、何度か講演を聴きに行きましたが、自分の講座と常と比較して聴くようになりました。また新しく介護の資格を取得することで、ツボ療法と介護を結びつけた新しい講座内容へと一新する機会も得ました。

そして昨年、満を持して自遊塾復帰！講座内容も2時間の講座だったものを90分にし、形式も講義中心から実技中心に、難しい専門用語やテーマも最小限度に絞るなどの変更をしました。お陰で昨年の自遊塾講座ではリタイヤする人も減り、多くの塾生が単位を取得されました。塾生の出席率や単位取得率は自分の講座への評価と思えば、充実した講座運営ができたなあ和我ながら感じざるを得ませんでした。今年度も昨年以上の評価を得られるよう、よりよい講座を運営し塾生とともに自分自身も成長させていきたいと思えます。自己啓発の場を与えてくれる自遊塾、感謝です。

平成20年度 自遊塾 県民教授会 役員紹介

- 塾長 加藤 利雄
- 副塾長 岩田 元一
- 幹事 熊木 保子
- 齋藤 允
- 辻 (広報担当) 美喜子
- 辻 (出前・庶務担当) 美喜子
- 平田 清志
- 水須 (交流・研修担当) 忠



新講座の

NEW 塾生の声

「腹話術人形で笑いの出前」に参加して

塾生 酒井 義久

お茶目、おすまし、腕白坊主、たくさん愛くるしい人形が、黙って私を待っている。今日はどの子と話をしようか。私は足取りも軽く階段を駆け上がる。

並木先生や多くのサポーターの皆さんが、声の出し方、人形の動かし方を丁寧に教えてくださる。「腹話術人形で笑いの出前」講座。人形の口を動かしたつもりが、間違っただけを動かしている私に「目は、口ほどに物を言い」と、温かいアドバイス。「へたで良い。へたが良い」と励まされ、多くの人とふれ合う楽しさを知った。「自分にチャレンジ！明日にチャレンジ!!」こんな気持ちで学んだことを是非活かしたい。

「池田晶子を読む」に参加して

塾生 松井 祐介

貧困を克服しさえすれば幸せになれる、と走り続けて来た日本社会。その貧困を克服しなくても豊かになり、平均寿命世界一の長寿社会を実現した今、多くの人の頭に浮かぶ思いは「こんなはずではなかった」ではないでしょうか。年金の破綻が発覚し、政府など安易

に信用してはならない事も多くの人が思い知りました。加えて、地球環境の悪化、物価高騰、格差問題、ニート：と、個人レベルでは孤独感・疎外感が浸透し、世は拝金主義とその結果としての閉塞感で充滿しているかに見えます。

そんな中、これら大問題と並行して、常識や通念で曇った脳みそを根底から整頓してくれそうなテキストを使い、「私」の存在や出会いの不思議、この世の真相等、人生の根源的且つ非日常的なテーマについて語り合っています。縁あって出会った方々とこの「謎」について語り合う事は楽しく、貴重な場だと思っています。



音色に魅せられて

塾生 松本 純子

「箏（琴）に触れ心にもうおいを」県民教授松井先生の一言に目をうばわれて、勇気を出して挑戦することにしました。触ったこともない箏、はたして音が出るのか心配でしたが、先生のまず触れることからということと、「さくら・さくら」を初練習。琴爪が指からはずれて飛んでいったり十三絃の数え方が解らなかつたりと、皆、四苦八苦。練習の成果は如何に？部屋中に素晴らしい響きが・「ヤッター」先生から賞讃の言葉を掛けられた喜びは忘れることが出来ません。初心者ばかりの塾生六人、優しい松井先生の指導のもと練習曲は一つ一つ増えてきました。日本が誇る伝統楽器である箏に触れることができ、本当に楽しい素晴らしい講座でした。



あの青春を再びハーモニカ：

塾生 伊藤 正勝

水須先生の「人生を語りましょう」の言葉に惹かれて入塾しました。第1限目は3C（チャンス・機会・チャレンジ・挑戦・チェンジ・自己変革）から始まり、4K（元氣・やる気・本気・根気）へと進められ、3Cの中では「出会いの不思議さ」を説かれ、塾生の一体感の大切さを、また4Kの中では「本気」でハーモニカに取り組み姿勢の大

切さを強調されました。次に先生の模範演奏が始まると教室は静まり、ハーモニカの音色に聞き入りました。ハーモニカに対する先生の情熱に胸を打たれ、メロディーに込められている想いに涙が出そうになりました。

第3限目ともなると、笑いが生まれ和やかな中で、15歳の少女少女達・塾生はハーモニカに取り憑かれたように熱中しています。

「音楽はコミュニケーション」

● 忘れかけていた歌を思い出し、おもしろい曲を歌った。タイムスリッパして若返ることができた。曲にまつわる思い出も一人一人異なる、情報交換しながら仲良くなれたことが特によかった。先生の人がらや準備の素晴らしさに感激した。大正琴やオカリナの初体験が楽しかった。

● 気負わず参加することができ、楽しかった。懐かしい歌を次々歌う事ができ昔を思い出しながら楽しめた。

● 初対面の人たちなのに、以前の知り合いみたいに楽しく和やかに、時間が過ぎました。手指の運動、風船、童心にかえりました。

● 久しぶりに童謡を腹いっぱい歌った。リズム楽器は、とても楽しいです。

● 大正琴が素晴らしいと思った。

● 穏やかで優しい先生の指導にほっと癒される時間でした。

● 親しみをこめた共通の友人ができた。いろいろな人と楽しく歌ったり楽器を弾いたりできてよかった。

♪♪ (心の声) ♪♪

人気講座のひみつ

越中の山野草と温泉を楽しもう

高瀬 清美

幻想的な世界、一歩足を踏み入れると「マイナスイオン」が体中を包みこむ。こんな山の空気を一杯吸って我々グループは活動しています。

「びよぶでないよ、リョウブだよ」時々冗談をまじえながら、塾生さんの気持ちを引き寄せ、花の名前や木の名前を覚えてもらう。小さな花の可愛さ、美しさ、葉の見方、花や木に名札をつけてから4人の教授は頑張っています。山歩きは常に危険がともないです。ちよつとした事で事故に繋がります。そんな時、力強いスタツフが助けてくれます。一番足の遅い人に合わせ、元気な健脚の人には声を掛け合って調整してもらえます。同じ趣味を持つ者どうし、仲間意識を大切にしながら。

汗をかいたあとの温泉も楽しみの一つです。又、参加しようという意欲につながります。沢山の塾生さん、スタツフに囲まれ、私自身、幸せをいつも感じています。

「一番花の多い時にいっぱい花をみせてあげたい。共に感動を味わいたい。」これが私の夢です。雑草一つでも立派な花です。

「ありがとう」といつも花々に感謝し、人と人とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。



あなたも講師へ

朝野 隆雄

講座を受講されており、自分自身も講座を開講してみようと思っておいでの方にメッセージをお伝えします。

私もはじめは、辻先生の「美顔ツボ」講座を受講生でした。講座の中で、「やる耳ツボ」に、同じ受講生仲間と共に取り組みました。それをまとめ、ステージにて発表。次年には講師デビューです。さらに「ツボ整体」で学びを深めて受講生の皆様に喜んでもらっています。

また、「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」を受講。そこでの学びも大きなヒント(ひみつ)です。

どんなツボ講座？

3つのツボ講座として協力をしながら「いい呼吸いい顔」「目すつきりツボ体操」等のプレゼンも工夫中。県民の皆さまと共に未病と長寿法の学びを共に深めてゆきたいと熱く思っております。

塾生の声アンケートから

★ツボ講座だが、こんな癒される講座は初めて。

★ツボ押しだけでなく毎日の生活のしかた・運動・心のもち方も学べた。

3つのひみつ

①自分の好きを持つ。それをとことん極める。

②県民の皆さまに熱く伝えたい健康増進がある。

③塾生の声(ニーズ)を素直によく聴く。

あとは県教育委員会の先生や塾生等がきちんと支えてくださいます。安心して、あなたも講師になりましょう。



さわやかな空の下で歌いましょう

重松 秀子

平成十年、県民カレッジ担当の先生に声をかけられました。「富山のこの自然の中、青空の下で歌声を響かせてみないか。外国では街に音楽があふれている。あなたなら、それができる」と。私自身は恥ずかしい気持ちがあり、ましてや一般の人が集まってくれるのか心配でした。が今や、どんな人と出会えるのか、心ワクワク期待の毎年年になりました。

合唱経験のある人、ない人等平均年齢六十歳の男女が集まり、それぞれの特技を発揮してもらい、自遊塾理想の姿です。塾生自らが、まとめ役、会計、連絡、写真担当担し軌道にのせています。毎回場所を変えるのでその都度、終了後にお茶したり、時には昼食会で親睦を深めていきました。学遊祭でステージ発表を目標に楽しんでいきます。街角で「ビリーブ」が聞こえたら、私たちのグループが歌っていると思ってください。「さわやかな空の下で、さわやかな気分になりたい」そう願っています。



県民カレッジアンケート

県民カレッジ自遊塾では、19年度の塾生を対象に、自遊塾の印象などをたずねるアンケートを実施し、244件の回答をいただきました。

まず講座の印象ですが、会場、講師、学習内容、交流、開催周期や時間帯について「大変良い」「良い」「あまりよくない」「良くない」のなかから選んでもらいました。

「大変良い」「良い」を合わせた割合が、「会場」については91.8%、「講師」は97.5%、「学習内容」は95.1%、「交流」は81.5%、「開催周期」は90.2%、「開催時間帯」が91.8%という結果で、良いと答えた人が9割を超える満足度だったことがわかりました。

来年度も参加したいかどうかの質問には、「来年度も塾生と

してぜひ参加したい」とした人が110人で45%、「できれば受講したい」が61人で25%。合わせて7割の人が「また受講したい」と答えていました。

良かった点は「講師のお話がおもしろい」「楽しく覚えられ、事業催事に参加できた」「集まった受講生の雰囲気良かった」「あたらしい友達が出来た」「講座の内容が良かった」などの声が多く寄せられました。

また意見としては「この取り組みをますます盛んにしてほしい」「受講料がこんなに安くていいのでしょうか」などの声があった。おおむね好評な意見が多く寄せられていました。一方で「人気の講座に入りにくい」「マンネリ化の傾向があり、もっとレベルアップも必要」といった厳しい意見もありました。

県民カレッジの20年

昭和63年10月1日、かつての生涯学習センターが廃止され、富山県生涯学習カレッジが誕生しました。翌日の北日本新聞朝刊に記載された、「いつでもただれでも気軽に学べる“生涯学習の場”を目指す県民カレッジの開学」一式典に受講者らが800人の記事や開学式の写真等からも、県民カレッジに寄せる県民の期待の大きさを窺い知ることが出来ます。

以来、平成2年に「とやま学遊ネット」開通、平成5年に「映像センター」開設、平成7年には「自遊塾」が開始され、県民の生涯学習ニーズに応える努力を続けてきました。さらに、平成13年に新川・砺波、平成16年には高岡に各地区センターを開設し、本県の広域的・先導的な生涯学習推進の中核的機関としての役割を担っております。

この節目の年にあたり、県民カレッジは新たな生涯学習の可能性を求め、さらなる飛躍をと考えております。今後とも、皆様のご支援よろしくお願いいたします。



北日本新聞 昭和63年10月2日

県民カレッジが開学

式典に受講者ら800人

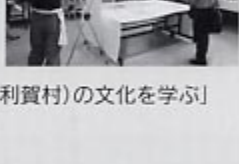
県民カレッジ20周年記念フェスティバル

日時 平成20年8月30日(土) 10:00~17:00
場所 富山県教育文化会館

内容

学習発表 (自遊塾分)

- ステージ発表 (ホール)
 - 「あの青春を再び!!ハーモニカと人生・健康・音楽について!!」
 - 「さわやかな空の下で歌いましょう」
 - 「横笛、聴く、吹く、親しむ!!」
 - 「マイボエム 綴る&詠む」
- 展示 (集会室)
 - 「自然美の転写アート」
- 展示・実演 (集会室)
 - 「子どもの創造育成と『紙芝居』」
- 展示・ミニ体験 (集会室)
 - 「美顔ツボ推拿で、目すつきり3歳若く(初級)」
 - 「ツボ・整体でいい呼吸いい顔肩こり楽に!」
- デモンストレーション (集会室入口)
 - 「バルーンでイベントを盛り上げよう(初級)」
 - 「腹話術人形で笑いの出前」
- ミニ講座 (学習室)
 - 「子どもの創造育成と『紙芝居』」
 - 「みんなで楽しく『群読』!~ファイナル~」
 - 「藤に親しむ」
 - 「発見!!越中国の埋もれた歴史(6)『富山藩による蝦夷出兵計画』」
 - 「富山の魅力を探してスクラップブック!」
 - 「雲を見て今いる場所の天気を予想しよう」
- 展示・実演 (学習室)
 - 自遊塾倶楽部
 - 「医療の壁に」
 - 「『日本百名山』机上登山」
 - 「美顔ツボ推拿で、目すつきり3歳若く(初級)」
 - 「ツボ・整体でいい呼吸いい顔肩こり楽に!」
 - 「越中の山野草と温泉を楽しもう」
 - 「雲を見て今いる場所の天気を予想しよう」
 - 「蕎麦ロマン:栽培と実技でそばの知識や山里(利賀村)の文化を学ぶ」



式典

高単位者認定証授与など

基調講演

「私を育てたとやま」
辺見じゅん (作家・歌人)

シンポジウム

「とやまの学びを語ろう」
・パネリスト …………… 辺見じゅん (作家・歌人)
石井 隆一 (富山県知事)
中尾 哲雄 (インテックホールディングス会長)
経田 博子 (自遊塾第四代塾長)
・コーディネーター …… 中西 彰 (県民カレッジ学長)



自遊塾合同開講式

経田 博子

「人生には三つの坂がある。上り坂・下り坂そしてもう一つは、ま・さ・か・誰かがスピーチで言っていた言葉がふと浮かんだ。」

合同開講式が始まる直前、カレッジ担当者が、進行担当の私の席にいらして、おっしゃった。「ご講演くださる先生の乗った飛行機が、富山空港の霧の影響で東京に戻られたので、開講式の時間を延長してください。」



加藤塾長に続いて、齊藤さん・朝野さん・大淵さん・三辺さんの4人の県民教授から、自遊塾に関わった大きさや学んだこと、喜びなど聴く予定だったが、登壇する4人には時間が無いので短めに話してほしいとお願いしたのだが、急に、時間がたっぷり出来た。

まるで、初めから時間が用意されていたように、県民教授たちは、自分の経験を通して実感できたことを生き活きと話し、会場に集った県民教授も一言ずつ挨拶が出来た。まさかを楽しむ、これも自遊人故。自遊塾には、多くの学びの場がある。



編集雑感

齊藤 允

今年の夏は暑い! 7月の富山の平均気温は昨年より35度も高く4年ぶりの暑さ。インド洋のダイポール現象といわれる海面水温偏差の変動が原因という学者もおられますが、季節は人間界の混迷とかかわりなしに順調に進んでいるようです。暑い中、熱い思いの執筆をいただき、井戸端通信34号を発刊することができました。この通信が塾生の皆さんのさらなる学びの励みとなることを願ってお届けします。